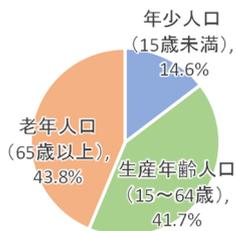


# 赤崎 (あかさき)

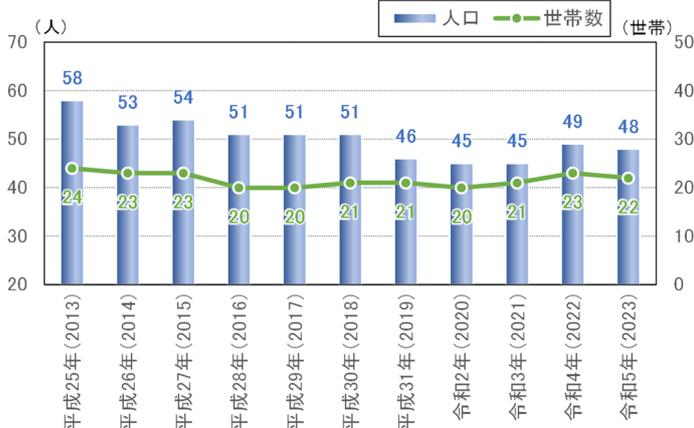
## 人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	48人
世帯数	22世帯
高齢化率	43.8%

### 年齢別人口割合



## 人口・世帯数の推移 (過去10年間)



## 区域の概要

**立地** 集落の東西に山が迫り、和田川の両岸に家屋が密集する農村で、田畑は少ない。

**地名由来** 「赤崎」の地名の由来は、「明崎で、夜の明ける、日の上がる、あかるい崎」という意味ともされるが不明である(「たじま地名考」日本海新聞)。

**歴史等** もとは和田村と合わせて細見村と称し、寛永4年(1627)までに分村したという。

近世の赤崎村は、豊臣政権下では太閤蔵入地(豊臣氏の直轄地)で、江戸時代には、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、正保元年(1645)幕府領、寛文8年(1668)豊岡藩領、享保12年(1727)からは幕府領となった。享保年間(1716~1736)頃、当村枝郷の三尾村を分村したと思われる。家数は、宝暦10年(1760)64、嘉永元年(1848)30、安政5年(1858)31。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は107石余。江戸期の農産物は、粟・稗・芋・蕎麦・小豆・綿などがあげられる。

明治22年(1889)東浜村の大字となり、明治24年(1891)からは浜坂町の大字となる。明治24年(1891)の戸数32、人口は男98・女84。

## これまで把握している文化財

文化財の件数 15件 (うち指定等文化財 4件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等	
有形文化財	建造物	建築物	0	0	
		石造物	0	0	
		工作物・その他の構造物	0	0	
	美術工芸品	彫刻	0	1	0
		絵画	0		0
		工芸品	0		0
		書跡・典籍	0		0
無形文化財		古文書・歴史資料・考古資料	1	0	
		音楽	0	0	
		演劇	0	0	
		工芸技術	0	0	
		その他の無形文化財	0	0	
		信仰の場	4	0	
	民俗文化財	有形の民俗文化財	祭具	0	0
			民具	0	0
			その他の有形の民俗文化財	0	0
		無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	2	0
記念物	遺跡	民俗技術	0	0	
		食文化	0	0	
		民間説話・俗信	0	0	
		その他の無形の民俗文化財	0	0	
		散布地・集落跡・生産遺跡	0	0	
		古墳・その他の墓	0	0	
	名勝地	城館跡・寺社跡	2	3	0
		街道・古道等	1		0
		戦争遺跡	0		0
		その他の遺跡	0		0
動物・植物・地質鉱物	山岳・高原・丘陵	山岳・高原・丘陵	0	8	0
		海岸・海浜・島嶼	0		0
	河川・滝・渓谷・湖沼	河川・滝・渓谷・湖沼	0		0
		公園・庭園	0		0
		その他の名勝地	0		0
動物	動物	0	5	0	
	植物	0		0	
地質鉱物	地質鉱物	5	4		
	文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地	0	0	
伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等	0	0		



赤崎三柱神社



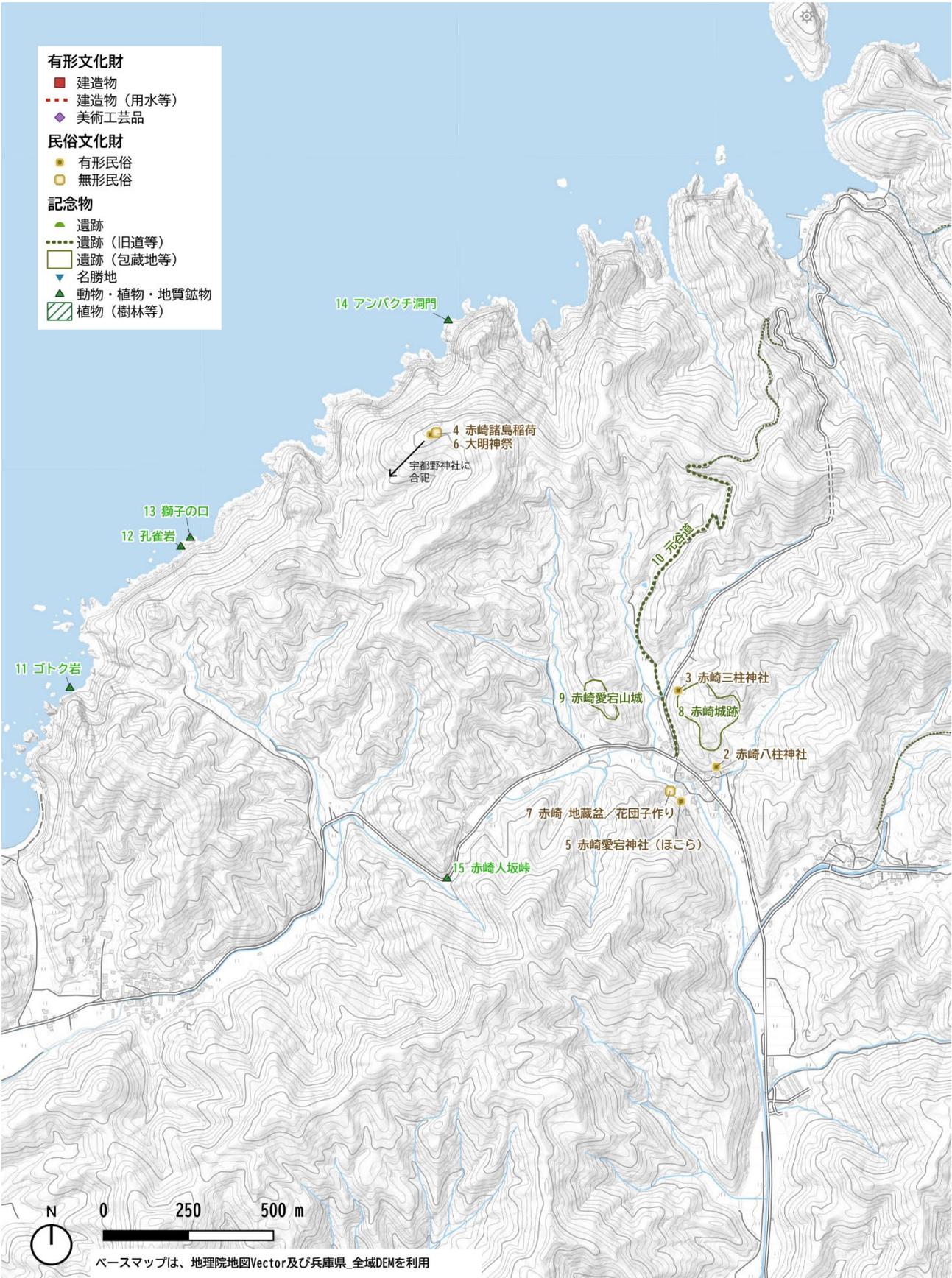
花団子



獅子の口

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

## 1-06 赤崎

### 文化財の一覧

#### ■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	1	赤崎村文書	元文2年(1737)山論争訴状関係文書。

#### ■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	2	赤崎八柱神社	祭神は神速素戔鳴命。創立年月は不明。延宝2年(1674)、明和2年(1765)の造営を経て、明治6年(1873)10月に村社に列せられる。境内社に稲荷神社(保食神)がある。
	3	赤崎三柱神社	祭神は神速素戔鳴命。創立年月は不明。延宝2年(1674)、明和2年(1765)の造営を経て、明治6年(1873)10月に村社に列せられる。境内社に稲荷神社(保食神)がある。
	4	赤崎諸島稲荷	赤崎集落から北西に約2kmの山頂にあり、古くから近在の人々の信仰を集めていた。奉納されている太鼓に記された名前から、遠く鳥取県の大岩や大谷、岩本の漁師も参ってきていたことがうかがえる。宇都野神社に合祀された。
	5	赤崎愛宕神社(ほこら)	赤崎愛宕山城の主郭北西上段に位置する小祠。

#### ■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	6	赤崎諸島稲荷大明神祭	8月16日に行われる。宇都野神社に合祀された。
	7	赤崎 地藏盆 ／花団子作り	毎年8月23日の地藏盆に、すこやかクラブ(老人会)が中心となって、地区の公民館に集まって行っている伝統行事。

#### ■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
城館跡・ 寺社跡	8	赤崎城跡	中世の城館跡。堀切・郭が残る。
	9	赤崎愛宕山城	中世の城館跡。城は尾根頂部を曲輪化しておらず、その背後に堀切も設けられていない。曲輪の連続性にも乏しい。このような特徴は南北朝期から室町期の様相である。戦国期に至り、堅堀で部分的な改修を行ったものと考えられる。城は、赤崎から三尾、田井、対田方面に至る交通の要衝にあり、交通ルートを押さえる役割を担っていたものと推察されるが、規模的には小規模で「村の城」と位置づけられる。
街道・古道等	10	元谷道	小三尾の南にある山を越えて赤崎に通じる道で、隣村へ通ずる道のなかでは距離も一番短く、かつては他地区との交流によく利用された主要道路でもあった。記録によると、安永2年(1773)に道の改良工事が行われて峠の切下げ等が行われた。

## ■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
地質鉱物	11	ゴトク岩	ゴトク岩は、火鉢や囲炉裏などでお茶を沸かす五徳に似ていることから名付けられた。節理に沿った規則的な崩壊が特徴である。 国指定名勝及び天然記念物（「但馬御火浦」として）
	12	孔雀岩	赤崎から田井との間の柱状節理が放射状に発達した岩。クジャクが羽を広げているところに見えることから、クジャク岩の名がついている。 国指定名勝及び天然記念物（「但馬御火浦」として）
	13	獅子の口	黒い岩の間の裂けた穴から赤い岩が見える。日本海形成初期の火山岩。獅子の口が赤い口を開けているように見えることから、この名前が付けられている。 国指定名勝及び天然記念物（「但馬御火浦」として）
	14	アンバクチ洞門	網場口（あみばくち）洞門の通称。獅子の口と仙水灘の間にある洞門。玄武岩質安山岩の火砕岩を破って貫入した流紋岩の岩脈中にできた節理沿ってできた洞窟。 国指定名勝及び天然記念物（「但馬御火浦」として）
	15	赤崎人坂峠	赤崎から田井への峠を「人坂峠」と呼び、切り通しになっている。この人坂峠の両側の断面は、かつて日本海が陸地であったものが地殻変動によって沈んだことを証明する地層として、学術的にも価値が高いものである。